




タイトル:足型ない・・・	2歳児	つぶやき・エピソード部門
--------------	-----	--------------



「足、いっぱいや」




「手も足も、いっぱいになった」



雨上がりのテラスの端に水たまりがあり、テラスに出て水たまりに手をつけ、ピチャピチャして触っていました。テラスの乾いているところに手型がつくことに気づき、遊び始めました。たくさんの手型をつけると、次は足裏にも水をつけ、足型もつけ始めました。

歩くとき足型が続いてつくことに気づき、「いっぱいや」とたくさん足型をつけていました。乾くのも早く、何度も試してみることができました。

「かきかきしてるねん」



A児が手の平と足裏を濡らし、ハイハイをしていました。A児は手型しかつかないことに気づき「あれ？足ない」とのことでした。何度か水をつけ直しやってみていました。同じようにハイハイをしていたB児が何度かしているうちに「こうしたらいいねんや」と高這いになって、手足の型をつけ始めました。A児も同じようにして、「できた」「足ある」と何度もしていました。他児も高這いで歩いたり、ジャンプをしたり、走ったりして、様々な方法で型をつけることを楽しんでいました。翌日以降も同じように繰り返し遊んでいました。

更に、筆とローラーを準備すると水をつけてかいたり、転がしたり、車やボール、カップなどにも水をつけて遊んでいました。

タイトル:なんで命がなくなっていくんだろう	5歳児	つぶやき・エピソード部門
-----------------------	-----	--------------

ダンゴムシ、トンボ、セミ、バッタ、アメンボ、ヌマエビ、ザリガニ、コオロギなど様々な生き物探しを楽しんでいた。「育てたい!」という声があり、『親しみの気持ちをもって優しくかかわれるようになってほしい』『命の大切さを知ってほしい』という思いもあったことから飼育することにした。

飼育し始めは、子どもたちの生き物への触れ合い方や可愛がり方が原因で死んでしまうことが多く、何度か話をしたことで少しずつ、「優しく」「そんなんしたら可愛そう」と意識できる子どもも増えてきていた。

しばらくして、飼育環境が不十分、寿命などさまざまな理由も重なり生き物たちが次々に死んでしまった時期があった。それを見つけたA児が一言。「どうして命がなくなっていくんだろう」

この言葉をきっかけに全体でもう一度話をしたことで、子どもたちの生き物へのかかわり方にさらに変化が見られるようになった。

タイトル:イカライスもあるかな	4歳児	つぶやき・エピソード部門
-----------------	-----	--------------

園庭でいっぱい身体を動かして遊んだ後、保育室に戻ってきた子どもたち。

保育者「いいにおいするね。今日の給食何やったかな」

子ども「タコライスやで」

保育者「よく知ってるね!」

子ども「イカライスもあるのかな」

とてもかわいらしいつぶやきでした。

タイトル:カブトムシかっこいいな～	2歳児	つぶやき・エピソード部門
-------------------	-----	--------------



カブトムシや!!

かっこいいな～

今、動いたな!

足が動いてるわ!

園庭にある玩具棚の上をじ〜と見つめる2人。目線の先にはカブトムシがいます。「し〜〜〜!」「かっこいいな」と、小さな声で会話をしながら観察を進めます。カブトムシを触れない2人は、少しの動きも見逃すまいと息をひそめて見つめています。「あっ!今、動いたな!」「うん!足が動いた!」と、発見を確かめ合い、満足そうでした。でも、それは本物のカブトムシではなく、本物によく似たフィギュア…。3歳児さんが置き忘れていたようです。2人の真剣な様子を見ていたら、本当のことは言えませんでした。

タイトル:シャワーの後は…	2歳児	つぶやき・エピソード部門
---------------	-----	--------------



もうちょっとで乾くからね～

ゴーーーー

水遊びやプール遊びが盛り上がる7月。保育室の片隅に小さな椅子とおもちゃのドライヤーを置き、子どもの目線の高さに鏡を付けておきました。すると、シャワーを済ませた子どもたちが順番にやってきて「ゴーーーー」と髪の毛を乾かすまねっこ遊びが始まりました。友だちの髪の毛を乾かす場面もあり、シャワーの後のほっこりタイムになりました。

タイトル:食べるのーいすき	1歳児	つぶやき・エピソード部門
---------------	-----	--------------

給食やおやつの準備が終わると“今日はメニュー何かな?”と机を覗くほど食べるのが大好きな1歳児うさぎ組の子どもたち。少しずつ、「ちょうーだい!」「おかわり」「(ごちそうさまでし)た」と思いを言葉や仕草で伝えるようになってきたある日のこと……。

子どもたちが大好きな手遊びするといつもは「もっかい(もう一回)」と返ってくるところが、食べるのが大好きなAちゃんが思わず「おかわり!!」とリクエストしていました。別の日もBちゃんが机の上でシール貼りを楽しみ完成すると礼儀正しく手を合わせ「ごちそうさま」とつぶやく姿が!!

1歳児ならではの言葉の言い回しの可愛さや、日常のやりとりが身につきつつあるのだと感じるエピソードです。